

## 「横山大観展 良き師、良き友」の展覧会グッズに

日本画の巨匠の一人、横山大観。大観の良き師である岡倉天心と良き友人4人、今村紫紅、小杉未醒、小川芋銭、富田溪仙との交流を通して、大観は後世に残る名作を多数生みました。カレンダーやファイル、チケットケース、マグネット、絵葉書等に東京国立博物館蔵 E0014460「瀟湘八景 漁村返照」や C0007151「東海道五十三次絵巻」等が採用されました。



左からチケットケース(ダブルチケットファイル) 350円(税込)、マグネット600円(税込)、クリアフォルダー(A4クリアファイル) 350円(税込)、絵葉書(ポストカード) 100円(税込)

卓上カレンダー 800円(税込)

## 雑誌『サライ』の特製カレンダー「日本美術の名宝」に

趣味・食・旅などをお届けする、『サライ』の12月号(2013年11月10日発行)には、平成26年『サライ』特製カレンダー「日本美術の名宝」が付録となっています。サイズは縦19.5×横28.5cmの手頃な壁掛け型です。美術史家・明治学院大学教授の山下裕二先生の監修・撰によるもので、表紙を含め13枚ものカレンダーの5枚に東京国立博物館の画像が採用されました。



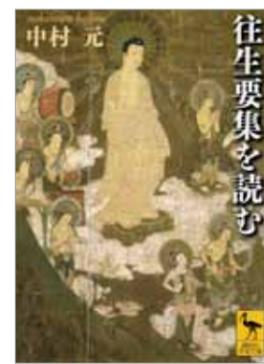
E0026279 葛飾北斎「諸国瀧廻り 下野黒髪山きりふりの瀧」江戸時代・天保4年(1833) Image: TNM Image Archives  
C0003072 狩野秀頼 国宝「花親観図屏風」室町時代・16世紀 Image: TNM Image Archives

## 東京国立博物館2014 カレンダーに

2014年度東京国立博物館カレンダーに、イメージアーカイブの画像(国宝 TAMI00167「秋冬山水図」や TAMI00167「檜図屏風」、TAMI00167「花下遊楽図屏風」等全12点)を提供いたしました。



## 『往生要集を読む』表紙に阿弥陀聖衆来迎図



中村元著『往生要集を読む』講談社学術文庫、1,008円(税込)

昨今は「地獄」と「極楽」関連の本が多く出版されています。インド思想や一般仏教には存在しない地獄と極楽の対立概念が日本人の宗教観として根づくのには、平安時代に著された『往生要集』の影響がありました。中村元による『往生要集を読む』の表紙に、臨終間際の往生者の枕元に大衆を救済するために阿弥陀仏が諸尊を従えて出現する様を描いた東京国立博物館所蔵 C0054758「阿弥陀聖衆来迎図」が取り上げられました。

2013年12月1日発行  
発行：株式会社 DNP アートコミュニケーションズ  
▶お問合せ：電話 03-6431-3702 / FAX 03-6431-3705  
▶イメージアーカイブ営業時間：平日 9:30 ~ 17:30  
<http://search.dnparchives.com/>  
〒141-8001 東京都品川区西五反田 3-5-20 DNP 五反田ビル

# IMAGE ARCHIVES NEWS LETTER

DNP Art Communications

2013/12

No.31

特集 ◆ 千利休と茶の湯にまつわる美術品

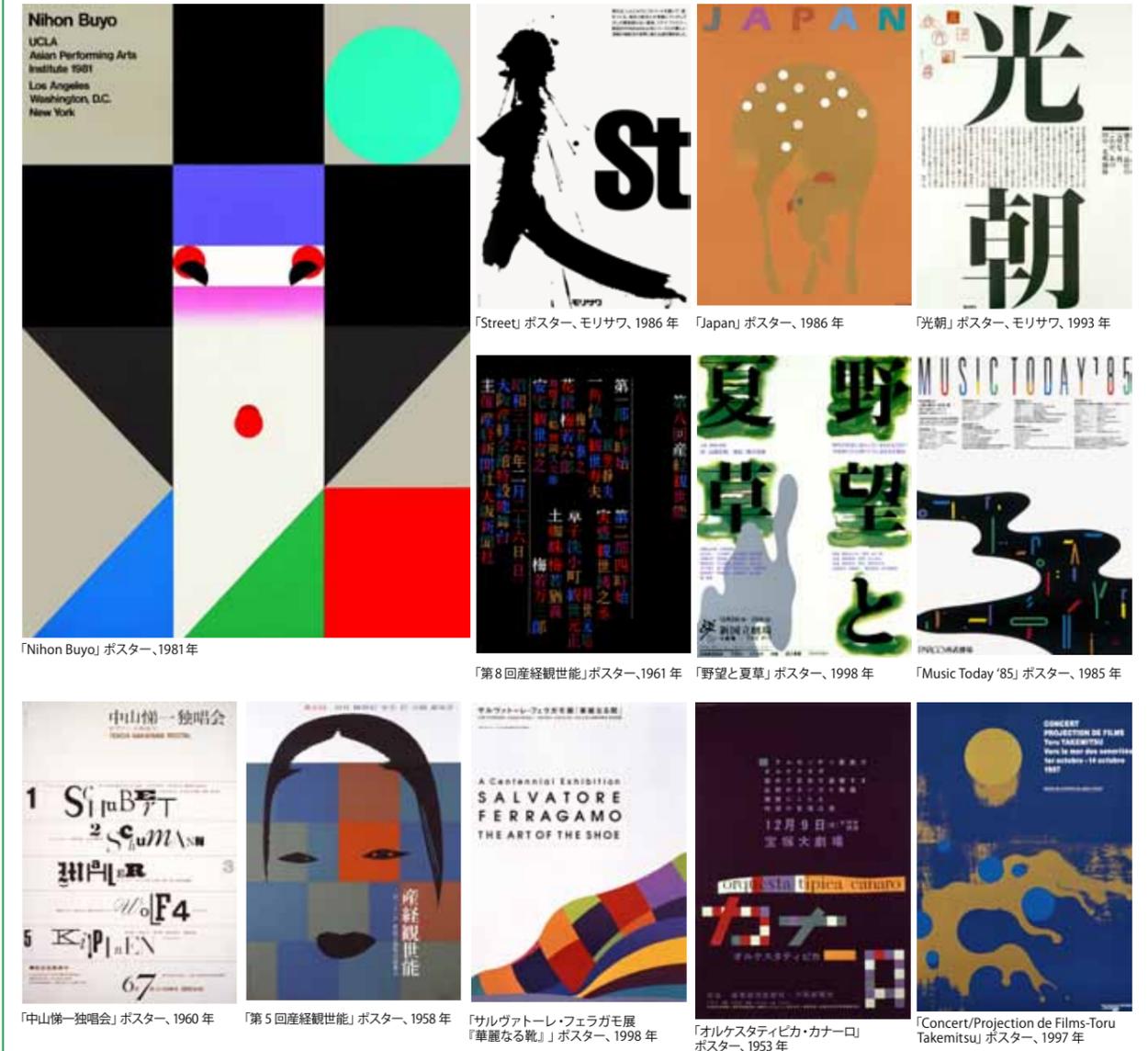
株式会社 DNP アートコミュニケーションズ



## 田中一光の著作権管理業務を開始。

日本を代表するグラフィックデザイナー 田中一光 (1930 ~ 2002) の作品の著作権管理を、著作権承継者との契約に 詳細につきましては、DNP アートコミュニケーションズにお問い合わせください。また、画像データのご提供につきま基づき行うことになりました。お手続きの方法、著作権料等、 ても対応できますので、ご相談ください。

© Ikko Tanaka / licenced by DNP Artcom 所蔵：DNP 文化振興財団



◎タイトル盤の画像——TAMI00059「純金台子茶具(四季花鳥図屏風取り合わせ)」寛永16年、徳川美術館所蔵 © 徳川美術館イメージアーカイブ/DNP Artcom

# 千利休と茶の湯にまつわる美術品

## SEN NO RIKYŪ AND THE HISTORY OF THE JAPANESE "WAY OF TEA"

お茶の歴史は、古くは、中国の唐王朝の時代にまで遡ります。お茶は、遣唐使が中国から持ち帰ったのが始まりと考えられています。とりわけ室町時代中期、人々の生活に余裕が生まれ、大名を始め織田信長や豊臣秀吉といった戦国時代の武将達の中での政略上の重要な「結びつき」の手段として流行しました。今回の特集では、千利休が関わった茶道具から後世まで続く茶の文化にまつわる作品をご紹介します。



TAM001176 「唐物台子飾り」徳川美術館所蔵 © 徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom

### ■千利休という人物

千利休は、織田信長や豊臣秀吉といった時の権力者に仕えた茶人。「わび茶」を確立した人物として知られ、茶聖とも呼ばれている。武野紹鷗に師事。茶の湯の改革に取り組んだ人物である。政治舞台にも深く通じていたが、死罪を命じられた。秀吉の怒りを買ったことで死罪になったという説が有力である。

利休の茶の湯の重要な点は、名物を尊ぶ既成の価値観を否定したところにあり、禁欲主義にも見える。代表的な茶道具で陶工の長次郎を指導して作らせた「楽茶碗」に、利休の美意識があらわれている。造形的には、一切の装飾性を省いている。利休の茶道具は、決して高価なものではなく、身近なものを価値のある造形に仕上げたのであった。

### ■茶入



TAM001116 「世藝純子仕覆、白極純子仕覆(漢作文琳茶入(銘 古屋)附属)」16-17世紀、徳川美術館所蔵 © 徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom  
 SAME016 「唐物茄子茶入 付 藤茄子 大名物」南宋～元・13～14世、静嘉堂文庫美術館イメージアーカイブ/DNPartcom  
 TGM000071 「新田」南宋・13世紀、徳川美術館所蔵 © 徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom

### ■茶碗



TAM000088 「白天目」室町時代、徳川美術館所蔵、© 徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom



TAM000085 「羅変天目(油滴天目)」中国・金時代、徳川美術館所蔵 © 徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom  
 TAM000100 「三鳥茶碗 銘 三鳥桶」朝鮮王朝時代、徳川美術館所蔵 © 徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom  
 TAM000093 「唐草文染付茶碗 銘 荒木」中国・明時代、徳川美術館所蔵 © 徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom

### ■花生・水指・茶壺



TAM000120 千利休「竹一重切枝花生」桃山時代、徳川美術館所蔵 © 徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom  
 C0042591 千利休「竹一重切花入 銘 園城寺」桃山時代、徳川美術館所蔵 © 徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom



上 TAM000128 「古備前水指 銘 青海(蓋付)」15世紀、下 TAM000130 「南蛮水指 銘 芋頭」16世紀、徳川美術館所蔵 © 徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom  
 TAM000117 「(右)唐物茶壺 銘 松花/(左)唐物茶壺 銘 金花」13～14世紀、徳川美術館所蔵 © 徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom

### ■絵巻物・掛軸



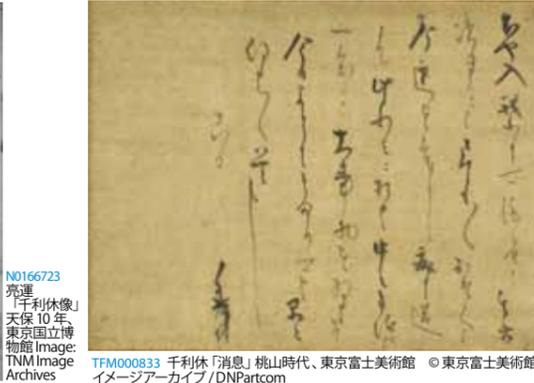
TGM000036 「水戸東照宮祭礼図巻」(部分)12世紀、徳川ミュージアム所蔵 © 徳川ミュージアム・イメージアーカイブ/DNPartcom  
 右上部分:茶を振舞う様子が描かれています

### ■茶の歴史

お茶は、元々中国の唐次代から宋時代に発展したもので、日本には、奈良・平安時代に唐へ行った最澄や空海といった留学僧が茶の種子を持ち帰ったことが始まりとされています。



TAM000029 「歌舞伎図巻 下巻」(部分)17世紀、徳川美術館所蔵 © 徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom



N0166723 亮運 「千利休像」天保10年、東京国立博物館 Image: TNM Image Archives  
 TFM000833 千利休「消息」桃山時代、東京富士美術館 © 東京富士美術館イメージアーカイブ/DNPartcom



TBM000296 一位局 (伝「猿草子絵巻」1570年-1590年、大英博物館 © The Trustees of the British Museum c/o DNPartcom

### ■茶杓・棗



TAM000081 千利休「竹茶杓 銘 泪」16世紀、徳川美術館所蔵 © 徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom  
 TAM000084 千利休 (伝)「竹茶杓」16世紀、徳川美術館所蔵 © 徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom



C0010120 武野紹鷗「書状」室町時代・16世紀、東京国立博物館 Image: TNM Image Archives



TAM000078 千利休 (伝)「竹茶杓 銘 虫喰」16世紀、徳川美術館所蔵 © 徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom  
 TAM000831 古田織部「竹茶杓(正対)」17世紀、徳川美術館所蔵 © 徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom



TRE000376 橋本周延「千代田の大奥 茶の湯廻り花」(部分) 東京都江戸東京博物館 Image: 東京都歴史文化財団イメージアーカイブ



C0024367 「黒漆壺」桃山・江戸時代、東京国立博物館 Image: TNM Image Archives  
 SAME030 原羊遊斎 「片輪車螺鈿時絵大裏」江戸・文政12年(1829)、静嘉堂文庫美術館イメージアーカイブ/DNPartcom  
 TAM001291 「籐箱茶箱、仕覆、草花文染付茶碗、柿油薄茶器、唐船人物文祥瑞阿古陀形菓子器、竹継茶杓、緑釉茶巾筒、溜塗茶筌筒」中国・明/清時代、江戸時代、徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom